

大倉山保育園における自己点検・自己評価（職員用1/2）

5 : たいへん良い 4 : 良い 3 : 大体良いが更に良くできる(もう少し学べば深められる) 2 : 検討を要する

I. 保育の計画の編成と実施に関する評価

項目	内容	評価
① 目標 保育	(1) 目標は、各施設や、地域の特色を生かしているか。	4.1
	(2) 目標は、全職員で検討し、かつ共通理解を図っているか。	4
② 保育	(1) 保育所保育指針をふまえ、指導計画を乳幼児の実態に即して作成しているか。	3.8
	(2) 環境の構成を意識した保育や過程を常に工夫しているか	3.9
	(3) 素材・用具を適切に活用しているか。	4.1
	(4) 評価結果を基に、保育の改善に努めているか。	4
③ 行事	(1) 行事のねらいを計画や実施に十分生かしているか。	4
	(2) 乳幼児の自主的・実践的な活動にしているか。	4
	(3) 計画・実施・評価・改善の体制をとっているか。	4
	(4) 保護者の願いや意見を取り入れているか。	4
④ 食育	(1) 目標は、全職員で検討され共有されているか。	4.3
	(2) 食に興味を持てるよう、年齢別の食育活動を行っているか。	4.1

II. 開かれた保育所づくり

項目	内容	評価
① 施設間 連携 交流	(1) 他施設等と交流をしているか。	4.1
	(2) 参観や保育に参加する機会があるか。	4.3
	(3) 必要に応じて他施設と情報を交換し、それを交流活動に生かしているか。	3.8
② 地域 家庭	(1) 参観時間を制限せず、保護者以外も対象にした参観日・見学日・保育参加日等を設定しているか。	3.8
	(2) 保護者を含む地域の人材活用の時期・内容は適切か。	4.1
③ 子育て 推進 支援	(1) 地域の子育て支援として、園庭や保育室等を開放しているか。	4.5
	(2) 職員による、育児に係る「子育て相談」は充実しているか。	3.9
	(3) 医療機関、児童相談所等の専門機関と連携を図り、保護者にとって必要な情報を提供しているか。	4.1
④ 情報 の 発信	(1) 保育園だより・クラスだより、ホームページ等で施設の情報を発信しているか。	4.5
	(2) 行事や子育て支援事業等を、地域の連絡会や関係施設等に周知しているか。	4.3

大倉山保育園における自己点検・自己評価（職員用2/2）

Ⅲ. 保育の計画の編成と実施を支える諸条件に関する評価

	内容	評価
① 体制	(1)職務内容が明確で協働できる体制になっているか。	4.2
	(2)係りや仕事の分担・割り当ては適切か。	4
② 運営	(1)職員相互がそれぞれ全体的立場を理解し、協力や助言を惜しむことなく施設の運営に関わっているか。	3.9
	(2)打ち合わせ回数、時間、内容は適切か。	3.7
	(3)「ヒヤリハット」を記録・共有し、以後の保育に役立てているか。	4.1
③ 年齢別・ クラス 運営	(1)年齢別・クラス目標は、保育目標や乳幼児の実態に基づいて設定しているか。	4.4
	(2)年齢別・クラス目標に即して短期・長期のねらいを適切に設定しているか。	4.3
	(3)同年齢および異年齢児間の効果的な活動の充実を図っているか。	4
	(4)職員の連携は十分に取れているか。	3.9
	(5)評価(資料・諸記録)はしているか。	4.1
④ 保健・ 安全 指導	(1)避難訓練・交通安全指導を、計画に基づいて適切に実施しているか。	4.5
	(2)健康・安全な生活に必要な習慣や態度育成のために、家庭への啓発を行っているか。	4.1
	(3)乳幼児の安全確保のため、家庭・地域社会・関係機関等と連携を図っているか。	4.2
	(4)基本的なアレルギーの種類や特質について理解し、アレルギーの子どもの援助をしているか。	4.3
⑤ 研修	(1)研修の計画・運営は適切か。	4
	(2)施設内・施設外研修に積極的な姿勢で参加し、専門知識や技能を高め、日々の保育や業務に反映させているか。	4
⑥ 情報	(1)守秘義務を守り、乳幼児や保護者に関する個人情報を適正に取り扱っているか。	4.5
	(2)子どものことやクラスのできごと等で必要なことは、職員間で報告・連絡・相談をし、情報を共有しているか。	4.4
⑦ 施設・ 設備	(1)施設内外・設備の安全点検を計画的に行っているか。	4.2
	(3)不審者に対応する配慮を行っているか。	4
⑧出納・経理	(1)資材の有効利用や経費の節減に努めているか。	4.1

保育所における自己点検・自己評価（管理職用1/2）

5 : たいへん良い
4 : 良い
3 : 大体良いが更に良くできる(もう少し学べば深められる)
2 : 検討を要する

I. 保育の計画の編成と実施に関する評価

項目	内容	評価
① 保育 目標	(1) 目標は、どのように特色を生かしているか説明できる。	3.2
	(2) 目標は、全職員で検討し、かつ共通理解を図れるようにしているか。	3.7
② 保育	(1) 保育所保育指針をふまえ、指導計画を乳幼児の実態に即して作成しているかを確認し、必要に応じて適切に助言、指導をしているか。	3
	(2) 日々の保育に目を配り、必要に応じて適切な助言や指導、声掛けをしているか。	3.8
	(3) 評価結果を基に、保育の改善に努めているか。	4
③ 行事	(1) 計画・実施・評価・改善の体制に自ら関わり、実践しているか。	3.8
	(2) 乳幼児の自主的・実践的な活動にしているか。	3.8
	(3) 保護者の願いや意見を取り入れられるよう、日常の中で保護者とのコミュニケーションをとっているか。	4.5
④ 食育	(1) 目標は、全職員で検討し、かつ共有できるようにしているか。	3.8
	(2) 年齢別の食育活動が行われるように助言をしているか。	3.8

II. 開かれた保育所づくり

項目	内容	評価
① 施設 連携 交流 ・	(1) 他施設等と交流をしているか。	3.3
	(2) 参観や保育に参加する機会を設け、周知しているか。	4
	(3) 必要に応じて他施設と情報を交換し、それを交流活動に生かしているか。	3.5
② 地家 域庭 ・	(1) 参観時間を制限せず、保護者以外も対象にした参観日・見学日等を設定しているか。	3
	(2) 保護者を含む地域の人材活用の時期・内容は適切か。	3.8
③ の 推 進 支 援	(1) 地域の子育て支援として、園庭や保育室等を開放しているか。	4.3
	(2) 職員による、育児に係る「子育て相談」は充実しているか。	3.8
	(3) 医療機関、児童相談所等の専門機関と連携を図り、保護者にとって必要な情報を提供しているか。	4
④ 発 信 信 の の	(1) 保育園だより・クラスだより、ホームページ等で施設の情報を発信しているか。	4.8
	(2) 行事や子育て支援事業等を、地域の連絡会や関係施設等に周知しているか。	4
⑤ 評 外 部 部	(1) 第三者評価を導入し、施設運営に反映させているか。	4.8
	(2) 地域や保護者意見を施設運営に反映しているか。	4.3

大倉山保育園における自己点検・自己評価（管理職用2/2）

Ⅲ. 保育の計画の編成と実施を支える諸条件に関する評価

	内容	評価
① 体制	(1)職務内容が明確で協働できる体制になっているか。	4
	(2)係りや仕事の分担・割り当ては適切かどうかを見直しているか。	3.8
② 運営	(1)職員相互がそれぞれ全体的立場を理解し、協力や助言を惜しむことなく施設の運営に関われるような環境作りをしているか。	3.5
	(2)打ち合わせ回数、時間、内容は適切か。	4
	(3)「ヒヤリハット」を記録・共有するようし、以後の保育に役立てられるようにしているか。	4
ク③ ラ年 ス齡 運別 営・	(1)年齢別・クラス目標、およびねらいは、保育目標や乳幼児の実態に基づいて設定しているかを確認し、必要に応じ適切に助言、指導をしているか。	3.3
	(2)職員の連携は十分に取れているか目を配り、必要に応じて助言等を行っているか。	3.8
	(3)評価(資料・諸記録)等に目を通し、必要に応じ適切に助言、指導および改善を行っているか。	3.8
④ 保健 ・ 安全 指導	(1)避難訓練・交通安全指導の計画を作成し、それに基づいて適切に実施しているか。	4.3
	(2)乳幼児の健康・安全な生活に必要な習慣や態度育成のために、家庭・地域社会・関係機関等と適切に連携を図っているか。	4.5
	(3)基本的なアレルギーの種類や特質について理解し、アレルギーの子どもの援助をしているか。	4.5
⑤ 研修	(1)研修の計画・運営は適切か。	3.5
	(2)自身も含め、職員全員が施設内・施設外研修に参加できる機会を作り、職員の資質向上に努め、日々の保育や業務に反映できるようにしているか。	3.8
⑥ 情報	(1)守秘義務を守り、乳幼児や保護者に関する個人情報を適正に取り扱っているか。	4.5
	(2)子どものことやクラスのできごと等で必要なことは、職員間で情報を共有できるようにし、自身も状況の把握に努めているか。	4.5
	(3)公文書收受、発送、処理は適切に行っているか、また各表簿は適切な方法で作成・処理しているか。	3
⑦ 施設 備設 ・	(1)施設内外・設備の安全点検を計画的に行っているかを確認し、必要に応じて適切に助言、指導をしているか。	4
	(2)不審者に対応する配慮を行っているか。	4.5
⑧出納・経理	(1)資材の有効利用や経費の節減に努めるよう心がけ、職員が意識できるようにしているか。	3

【大倉山保育園 総評】

今年度は、一年を通して職員がチームに分かれて「マニュアルの見直し」「こどもの身体の発達と遊び」等の研修に取り組み、こどもの成長と保育内容について確認をしながら進めてきました。このことは新保育指針の学びを深めるとともに職員間の意見交換の活発化や共有にもつながりました。

今回の自己評価にはそれらが表れた形となりました。評価結果は全体に高いもので、とりわけ「食育」「情報の発信」「保育・クラス運営」「保健・安全」等年間を通じて力を入れてきた項目は、意識して取り組んできたことが現れるような高い数字でした。

それでも、「こうすればもっと良くなる」という意見がたくさん出されるなど、業務を前向きにとらえている様子がわかります。職員同士、認め合い励まし合っているからこそその「意見」を力に、今後はとりわけ以下の点に取り組んで参る所存です。

I 保育の計画の編成と評価

○新指針を活かし、こどもの姿からその主体性を発揮できる保育内容の実践に努める。

○「食育」一園児がさらに食に関心を持てるよう教材の取り入れ方を工夫する。

また、職員間の連携が密になるよう、給食会議、打ち合わせ会の充実を図る。

II 開かれた保育所づくり

○子育て支援行事を年間を通して計画し、早めの周知に努め大勢の人に利用していただく。

III 保育計画の編成と実施を支える諸条件に関する評価

○機械警備解錠操作の導入に伴い、その周知と定着を図り園児の安全確保につなげる。

これらを実行し保育の質を向上させるには、様々な勤務形態の職員が一丸となって取り組むことが大切です。今後さらに、職種、職員間の連携を密にして園児、保護者の方が「楽しく頼りになる保育園」目指して取り組んでまいります。